大阪公立大学中百舌鳥図書館貴重図書展示

歌書のくさぐさ――古典から近代へ　展示資料一覧

展示期間：二〇二五年一月七日（火）～三月二十六日（水）

『自讃歌注』　写　一冊

内題には「自讃歌」とあるが、『自讃歌』の注釈である。『自讃歌』は新古今集の有力歌人十七名の歌十首ずつを撰んだ秀歌選であるが、室町時代になるとその注釈がきわめて数多く作られた。本書もその一つ。奥に「大永六年(一五二六)六月日」とあるが、それから遠からざる頃の写本である。

古今伝授箱　五巻七冊入　より
『詠歌大概安心秘訣』
『詠歌大本秘訣』

古今伝授箱は、細川幽斎、松永貞徳を経て廣澤（望月）長考、（六喩居士）（平間）長雅、以敬斎（有賀）長伯へと至る、もっとも典型的な奥書をもつ伝書の一群。

最終的に文化八年に停雲館立斎（川井立斎、川井立牧の長男、立牧は五井蘭洲（懐徳堂）に学ぶ）が、廣岡昌雅に附与した奥書をもつ。

『古今和歌集』　刊　一冊

最初の勅撰集。下命者は醍醐天皇。紀友則、紀貫之、凡河内躬恒、壬生忠岑撰。『古今集』の和歌は歌会・歌合・屏風歌などの宮廷的な集団の場を温床として育成されたために、個人感情のなまな表出は避けられ、人々の共通理解の上に成り立つ類型の中で、それをどのようにうたうかに作者の力量が問われた。*一

『古今和歌集両度聞書』　写　一冊

「古今集」全巻に及ぶ注釈で、個々の事項についての考証的な記述は少ないが、一首の心を端的に説いている。本書は、常縁と宗祇との合作的な性格が強いようにみえる。*一

『小倉百人一首』（杉本図書館所蔵）

西順筆。一面につき一首を記す。列帖装を補修した際に生じたと思われる錯簡がある。

西順（一六一六～一六九四）は、江戸前期の大阪の連歌師、僧。号は如是庵。

『小倉擬百人一首』（杉本図書館所蔵）

小倉百人一首の和歌の内容を、歴史、伝説上の人物を演ずる役者絵によって擬したもの。種員による解説は、擬した図の解説である。もと百枚揃だが、森文庫には二十五枚のみを収める。

本資料には、『江戸の花名勝会』五枚が収められる他、「昭和八年一月一日大阪時事新報／賀正百人一首時事案内」が挟まれている。これは、百人一首の和歌をもじった狂歌による、百の商店の広告である。森繁夫氏の百人一首への関心を窺わせる資料である。

*一…日本古典文学大辞典（岩波書店）より抜粋

『むらさき』與謝野鐵幹著
東京新詩社　明治三四年（一九〇一）

『みだれ髪』與謝野晶子著　四版（訂正改版）
金尾文淵堂　明治三七年（一九〇四）

『毒草』與謝野鐵幹、與謝野晶子共著　訂正再版
本郷書院　明治三七年（一九〇四）

『火の鳥』與謝野晶子著
金尾文淵堂　大正八年（一九一九）

『鴉と雨』與謝野寛著
東京新詩社　大正四年（一九一五）

與謝野鉄幹（與謝野寛）

明治六年～昭和一〇年（一八七三～一九三五）

幼少時、西本願寺派の僧であった父や兄から古典文学を学ぶ。明治三二年に東京新誌社を結成し、翌年「明星」を創刊、同誌主筆として詩歌によるロマン主義運動展開の中心となる。鉄幹の門から晶子をはじめ、窪田空穂、吉井勇、啄木、白秋など多くの俊英を輩出した。*二

與謝野晶子

明治一一年～昭和一七年（一八七八～一九四二）

大阪府堺市の生まれ。明治二九年頃から歌作をはじめ、三三年東京新誌社の創設と共に入会し、「明星」に数多くの作品を発表。三四年『みだれ髪』を刊行、同年与謝野寛（鉄幹）と結婚。
自由奔放、情熱的な歌風で浪漫主義詩歌の全盛期を現出させたほか、婦人問題、教育問題にも活躍した。*二

『遍路：歌集』石川宰三郎著
南北社　大正三年（一九一四）

『夕ばえ』野口精子著
警醒社書店　大正四年（一九一五）

『草の葉』渡辺湖畔著
天弦堂書房　大正六年（一九一七）

『春の鋪道』山崎敏夫著　再版
水甕社　昭和四年（一九二九）

『収穫』前田夕暮著　増補再版
東雲堂　明治四三年（一九一〇）

『陰影』前田夕暮著
白日社　大正元年（一九一二）

『虹：歌集』前田夕暮著
紅玉堂書店　昭和三年（一九二八）

前田夕暮

明治十六年～昭和二六年（一八八三～一九五一）

明治三九年に白日社を創立し、四三年「収穫」を刊行、自然主義歌人として脚光をあびる。大正一四年の「原生林」刊行以後は自由律短歌運動に挺身した。*二

『明眸行』吉井勇著
天弦堂書房　大正五年（一九一六）

『草珊瑚：自歌自釈』吉井勇著
東雲堂書店　大正八年（一九一九）

『河原蓬』吉井勇著
春陽堂　大正九年（一九二〇）

吉井勇

明治一九年～昭和三五年（一八八六～一九六〇）

石川啄木らと「スバル」を創刊したあと、第一歌集「酒ほがひ」、戯曲集「午後三時」を出版し、スバル派詩人、劇作家として知られるようになった。情痴の世界、京都祇園の風情、人生の哀歓を歌い上げた一方、短編・長編小説、随筆から「伊勢物語」等の現代語訳など多方面にわたる活動を続けた。*二

*二…詩歌人名事典（紀伊国屋書店）より抜粋